



フレンドリーで昭和な六斎市

【新潟市北区松浜】文 / 榎本国男

むかし
昔から定期市 vol.08

松浜の六斎市は、市場特有の人と物の匂いが立ちこめていた。店の主と買い物客双方が既に親近の間柄のような雰囲気がある。客のほうも「今日は何と何を買おう」と決めているようだし、一方店のほうでも「今日はこれだ」と品揃えしているよう、気の合った者同士の売買が小気味よく行われているのを何ヵ所もの店で見た。そして偶然、保育園の園児たちの行列に出会った。保育士を先頭に年長さんから年少さんまでが、一本の綱をみんなで握りしめてぞろぞろ。左右の店を物珍しそうに覗きながら通り過ぎ、大人たちの世界にはほのぼのとした丸い空気を置き土産にしていった。市の立つ場所は、普段から近くにある保育園の園児たちの散歩コースにあたるそうだ。

新潟市の北部にある松浜は、日本最大級の河川、阿賀野川の河口右岸にある町。江戸時代から河川交通の要衝地で、源流がある福島県の内陸地方や新潟県の北部地域を川でつなぎ、さらに広い海とをつなげる湊町として賑わった。その繁栄ぶりは市が立つ松浜本町のレトロな街並みと、歴史のある町の鎮守く松浜稻荷神社>が伝えている。この神社の祭礼として、毎年8月25日にく阿賀野川ござれや花火大会>が開催される。二尺玉やスターインなど約4000発の花火が打ち上げられ、毎年10万人近くの観衆が夏の終わりの花火を楽しむ。後背地に新潟東港工業団地を控える松浜には、これだけ大きな花火大会を開催できるだけの経済的背景があり、それが六斎市の賑わいにもつながっているように見える。毎月2と7がつく日の、朝8時からお昼頃まで六斎市が立つ。

※苞(つと)とは、ワラなどを束ね、中に食品などを入れて包みとしたもの。わらづと。「大辞林 第2版」

松浜の名物にヤツメウナギとヤマトシジミがある。冬季のヤツメウナギは蒲焼きが美味。ビタミンAを多量に含み、夜盲症の薬として珍重されていたが、近頃では漁獲量は年々減少していると魚店の主は話してくれた。藁の苞にしっかり包まれたあの一本もののヤツメウナギは冬季の懐かしい風物詩だった。一方のヤマトシジミも近頃は滅多に見られないとい。それでもスーパーではお目にかかる珍しい産物が多く、安価な値段と売り手のさりげない懸命さにつられ、ついつい買い込んでしまった。

市は阿賀野川の堤防下の通りにあり、買い物客の多くは堤防に車を停めて市を訪れる。1km近い広大な川幅を目の前にした市は、開放的で店の人たちも穏やかで気さくだった。松浜に六斎市が立つて一世紀。いつまでも続いてもらいたい昭和の温もりにみちた朝市である。

ふうど 2016冬号 vol.31

企画編集 ふうど編集室
発行人 高橋泰義
取材編集 浅川綾子
佐々木聰
写真 波部佳則
斎藤道司
デザイン 小林翠
題字

編集後記

わあ〜雪だ！朝起きて一面の白い世界を見た時の、心が踊る瞬間。凍てついた夜の息をのむ美しさ。そして初めてスキーを履いた時の興奮など、雪国では日常的な感動も、ほんとうは雪国だけの心の宝物であったことを、今号の取材であらためて気づく。スキーの魅力を心から嬉しそうに話してくれた前原さん。レルヒ少佐の功績を歴史に鮮やかに遺したいと願う、実年齢よりかなり若々しい小堀さん。お二人の熱い地元愛が、盛衰激しいスキーームの波を乗り切っていくように感じた。いつの時代も普遍的な事柄に気づき、それを守り、損得抜きで信金を貢ぐ人がいるのだ。百年ほど前のレルヒさんも、その一人。新潟県を代表するご当地キャラ(レルヒさん)のモデルですが、今号の記事で少しだけでも実像を知っていただけたら幸いです。ちなみに(レルヒさん)の生みの親は、小説発行元の印刷会社の企画担当者です。(渋川)

発行所

ふうど編集室 株式会社タカヨシ

■本社・工場 / 〒950-0141 新潟県新潟市江南区亀田工業団地1丁目3-21 TEL (025) 381-2000 FAX (025) 381-4800
■東京支社 / 〒110-0005 東京都千代田区一丁目13-3 MYビル2F TEL (03) 3837-4488 FAX (03) 3837-4884
■仙台営業所 / 〒981-0952 宮城県仙台市青葉区中山5丁目7-32 TEL (022) 303-1225 FAX (022) 303-6830
■名古屋営業所 / 〒465-0093 愛知県名古屋市名東区一社4丁目83 ランドマーク社501号 TEL (052) 753-8080 FAX (052) 753-8081
■オフィシャルサイト / <http://www.takayoshi.co.jp> ■商品サイト / <http://www.tk-print.jp>

「ふうど」はここに置いてあります

【新潟市】<中央区>ANAクラウンプラザホテル新潟、駅前オフィスNII GATA、NSG学びステーション、NST、NPO法人 Made in 越後、上古町商店街、旧小瀬家住宅、県立自然科学館、砂丘館、佐藤商会、佐渡汽船ターミナル、新潟市食育・花育センター、新潟市中央図書館、新潟商工会議所、新潟市歴史博物館、新潟ユニゾンプラザ、ピアBandai、ホテルイタリア軒、りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館
<東区>桑名病院、バティスリーカフェオーレアン、<西区>新潟ふるさと村、新潟大学附属図書館、佐潟莊、<南区>新潟市農業活性化研究センター、<北区>新潟せんべい王国、ビューフ島潟、新潟空港
<江南区>新潟市立亀田図書館、<西蒲区>カーブッヂ、ドーメス・ショオ、秋葉区>カフェギャラリーまぼうし、農川自動車、農浦地区公民館
【新潟市】加治川地区公民館、柴崎寺地区公民館、新発田市生涯学習センター、新発田市民文化会館、新発田市立図書館、農浦地区公民館
【長岡市】新潟県立歴史博物館、長岡市立中央図書館、長岡西病院、【燕市】分水ビジターサービスセンター
【出雲崎町】越後出雲崎天領の里、【湯沢町】雪国觀光舍 越後湯沢温泉、【南魚沼市】柳栄
【佐渡市】SADO伝統文化と環境福祉の専門学校、ホテル佐渡
【東京都】<渋谷区>表参道・新潟館ネスバス、<中央区>プリッジにいがた、<千代田区>新潟市東京事務所

エコブレス
バインダー

RICE INK
この印刷物は環境にやさしい
米ぬか油を使用したライスインキで
印刷しています。

わくわくドキドキ、この冬、湯沢の苗場スキー場が熱い。
二〇一六年二月十三、十四日の二日間、
世界の強豪約八十人が集結し王者を決する。

『アルペンスキーW杯大会』が開催される。
国内では十年ぶり、苗場では四十一年ぶりのカムバツク。

スキー王国新潟の名にかけて、湯沢からスキー再興を願い、
静かな情熱が大会成功を支える。

そして百年ほど前、日本にはじめてアルペンスキーが到来した冬も、
おなじ新潟の高田の町は興奮に包まれたという。

競技種目は、もつとも注目度の高い

男子大回転・回転。山頂近くのス

タート地点から、標高のある斜面を

トップレーサーが猛スピードかつリズ

ミカルに、フラッグのあるコースをタ

ンしながら滑降してくる、おなじみ

の競技である。この世界最高峰の熱

闘シーンが、「ユザワナエバ」という地名

とともにテレビやインターネットで世

界中に配信される日が近い。

主催者で、大会の企画・運営にあ

る前原さんから話を聞く。「大会を

通じて湯沢からスキーの魅力を発信

し、日本のスキー再興に向けキックオ

フをします。大規模な国際大会の運

営経験はありませんが、選ばれたか

らには、やるしかないです。先のこと

を心配するより、突進あるのみです。

東京からのアクセスの良さやゲレンデ

もうすぐ、あの興奮が

雪山の魅力



湯沢の苗場スキー場。ゲレンデと快適なホテル空間とが溶けあっている。



ホテル付近と山頂を直結するプリンス苗場ゴンドラ。

前原さんにとってスキーや雪山の魅力は? 「昨年の夏に、FISの担当者が会場の視察に来ました。その時、国道の両端に立つ高いポールを見て、なんのためのものか質問されました。雪が降ると道路の境界がわからなくなるので、それを知らせる目印だと説明すると、そんなに雪が積も驚いていました。ここでは、あたりまえと思っていましたが海外では珍しいことなんですね。この雪の量を楽しむ手はありません。実はわたしは雪のない愛知県生まれ。五歳の時に湯沢に来てからこっち、真っ白な世界にぞっこん! 自分があの山を制したいという気持ちです。道具の操作もふくめ、すべて自分が制御する。風を切る感じや、バージンスノーにシュプールを刻む感じがたまりませんね。基本的にスキーは山でやるスポーツで、山は気持ちいい。自然と一体化し溶けこむ感覚がいいです。このところ雪山の楽しみ方の幅が広がっています。スキー、スノーボードだけでなくスノーシューという西洋風のかんじきを履いて雪山散歩もできるようになっています。W杯開催を契機に、雪山の魅力を再発見してください」。

Audi FISアルペンスキーW杯2016湯沢苗場大会

【競技1日目】2月13日(土) 男子大回転 【競技2日目】2月14日(日) 男子回転

【競技開始予定】両日とも1本目／午前10時・2本目／午後1時 〈会場〉苗場スキー場(南魚沼郡湯沢町)

アルペンスキーは発祥地のオーストリアでは国民的なスポーツでW杯には多くの観客が集まりお祭りのように町が賑わう。フランスではF-1に次ぎ人気がある。ヨーロッパをはじめ世界中のファンが注目をする。日本では最初と2回目のW杯が苗場で連続開催された。今回の湯沢苗場大会は、日本では10年ぶり、苗場では41年ぶりの開催になる。

とホテルが隣接する立地は、苗場にしかないメリットで、開催地に選ばれた要因のひとつでした。この強みを自信にして、とにかくW杯をやりきり、そこからもう一度スキー文化再興に向け、新たにスタートすればいいと思っています。

もうひとつ、子どもたちに夢をプレゼントできる教育的効果があります。湯沢には競技スキーをやる子どもたちもいるので、世界トップレベルの技術や選手の格好良さを肌で感じてもらい将来の目標や夢を持つもらえばと思います。そして雪国だからこそ練習に打ち込める環境があることを知ってほしいです。大会は町の小中学生五百人が見学する予定です」。国内大会に入賞経験があり、子どもたちにスキーを教えている前原さんの視線は先の先に向いています。

前原さんから話を聞く。「大会を通じて湯沢からスキーの魅力を発信し、日本のスキー再興に向けキックオフをします。大規模な国際大会の運営経験はありませんが、選ばれたからには、やるしかないです。先のこと

を心配するより、突進あるのみです。東京からのアクセスの良さやゲレンデ

に入りに整備します。そして開催日五日前から大会が終わるまでの一週間、二十四時間態勢で係員が現地に固めていくかが問題で、場合によつてコースの除雪もあります。ただコースづくりそのものは地元スキーリアが中心になって進めるので、こちらは必要な時に必要な人員を迅速に配置できる態勢を整えておく必要があります。大会の成否を握る重要なインフラですから万全を期したいと思います」。

コースの長さは一・四キロ弱。そのすべてを均一な硬さに維持するのだから並大抵のことではない。そのため陸上自衛隊高田駐屯地が二週間にわたり、延べ八百五十人の隊員を派遣しコースづくりや運営に関わり、人海戦術で世纪の大会を支えることになった。

コースの長さは一・四キロ弱。そのすべてを均一な硬さに維持するのだから並大抵のことではない。そのため陸上自衛隊高田駐屯地が二週間にわたり、延べ八百五十人の隊員を派遣しコースづくりや運営に関わり、人海戦術で世纪の大会を支えることになった。

ンディションで滑降するために、コースの平準化が大前提となる。

「コースの下地は三十～四十センチの氷。人工降雪機で雪を敷き、その上に氷を撒いて夜間に凍らせます。この作業を繰り返しながら、少しずつ氷を厚くしていきます。正月明けの四日から始め、通常は一週間ぐら

いのところ、一ヶ月以上をかけて念入りに整備します。そして開催日五日前から大会が終わるまでの一週間、二十四時間態勢で係員が現地に固めていくかが問題で、場合によつてコースの除雪もあります。ただコースづくりそのものは地元スキーリアが中心になって進めるので、こちらは必要な時に必要な人員を迅速に配置できる態勢を整えておく必要があります。大会の成否を握る重要なインフラですから万全を期したいと思います」。

前原さんにとってスキーや雪山の魅力は? 「昨年の夏に、FISの担当者が会場の視察に来ました。その時、国道の両端に立つ高いポールを見て、なんのためのものか質問されました。雪が降ると道路の境界がわからなくなるので、それを知らせる目印だと説明すると、そんなに雪が積も驚いていました。ここでは、あたりまえと思っていましたが海外では珍しいことなんですね。この雪の量を楽しむ手はありません。実はわたしは雪のない愛知県生まれ。五歳の時に湯沢に来てからこっち、真っ白な世界にぞっこん! 自分があの山を制したいという気持ちです。道具の操作もふくめ、すべて自分が制御する。風を切る感じや、バージンスノーにシュプールを刻む感じがたまりませんね。基本的にスキーは山でやるスポーツで、山は気持ちいい。自然と一体化し溶けこむ感覚がいいです。このところ雪山の楽しみ方の幅が広がっています。スキー、スノーボードだけでなくスノーシューという西洋風のかんじきを履いて雪山散歩もできるようになっています。W杯開催を契機に、雪山の魅力を再発見してください」。

みんなで滑つて
転んで大笑い



つくる
雪国 の 文 明 開 化

十四人のサムライ

雪中行軍訓練中の急斜面に停止しポーズをとるサムライたち。

種が県の南西部に位置する城下町。高田(現・上越市)に蒔かれた。

一九一一年(明治四十四)一月十二日の午後一時。「メテレスキー!」といふ力強い声が、雪に覆われた兵舎の庭から、冬晴れの明るい空に吸い込まれていった。その声の主こそ日本スキーの父、一本杖スキーで有名なレルヒ少佐である。その後に続く三

広報用に多くの訓練中の写真が撮影されたなかの一枚。右から3番目がレルヒ。

十四回におけるスキー訓練の初日
の第一声。仏語の「スキーを履け」と
いう号令によって、日本スキーの歴史
の幕が開いた。訓練を受けるのは、高
田の歩兵、第五十八連隊の隊長を
リーダーとする、連隊はえぬきの將
校十四人。身体能力に優れた屈強な
男たちは、まったく未知のスキーに
戸惑いながらも、戦争に連勝した日
本帝国陸軍の意地にかけ身体を張つ
てスキー技術を吸収していく。

訓練三日目のこと。レルヒを先頭に
した一行が金谷山に行き、百メートル
ル先の頂きまでスキーで登る。そこか

ムライたちが見せた、涙ぐましい勇気と一途さだ。次の訓練からは序々にスキルをあげる丁寧な実地指導に移っていく。

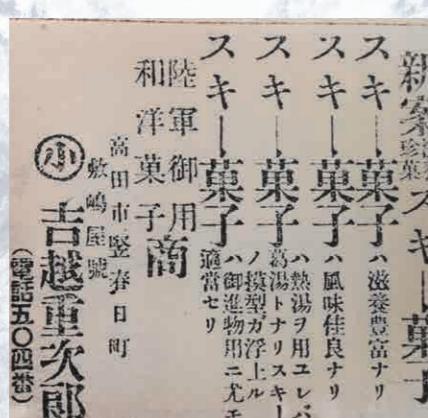
闘を想定した軍事用スキー技術。とくに危険が隠れている雪山では慎重に行動するよう厳格に指導した。功を急ぐあまりに軽はずみな行為をした時や、雪崩に遭遇した時に下した誤った判断などには、その場で長時間厳しく叱責されたという。オーストリア・ハンガリー帝国の軍人で、アルプスの山岳地帯で国境警備に従事したレルヒは、自然の恐ろしさを嫌というほど知つていて危険な行為は厳として戒めたのである。こうして理論的で執拗なまでに丁寧な指導によって、訓練生は言葉の壁を越えて技術を習得。その過程を逐次報告を受けていた軍の上層部は、日本では軍事より民間利用の方がスキーの活用範囲が広いことに気づき、民間に波及させる広報活動を始める。

軍のスキー広報活動は、地元や中央の新聞記者を巻きこんで大々的に行われた。記者を訓練に誘い、実際

種を育てた人びと

た。アルベンスキーの創始者・ツタルスキーの高弟だったレルヒは愛用のスキー二本を携行しての来日だった。陸軍省に雪の多い地域の連隊への配属を希望し、その願いが聞き入れられ高田の歩兵第五十八連隊に配属されたのである。連隊長の堀内文次郎が急遽結成されたスキー研究委員会の

り 経済面でもスキー製造という新産業を創出し輝かしい一時代を築いた。現在、上越市の中心部には、高田城の巨大さを偲ぶ公園があり、その一画に陸上自衛隊高田駐屯地があり、かつて第十三師団や連隊が駐屯する軍都であったことを思いださせる。この空の下に一年間、レルヒがいたのである。



熱湯を注ぐとくず湯になり、スキーの形が浮き上がるという新案のスキー菓子の新聞広告(明治45年2月10日／高田報)。この他にも豚汁を「スキー汁」、揚げ飯を「スキー飯」などでも「スキー」の名をつけるなど官民こぞってスキーの宣伝が行なわれた。



参考 杖を使わず手をとりあって滑る和服姿の女性たち。
日 タイのスキーの普及活動のために将校夫人たちも一役買つ

明治45年2月に撮影された高田郵便局員たち。高田にスキーが到来した翌年には民間に波及し、配達や電線修理など雪中を急ぐ現場などで利用され

ラレルヒは急斜面を一気に滑り降り、見事にフィニッシュを決めた。その姿を固唾を飲んで見ていた訓練生、はじめてスキーの何たるかを知り、レルヒの格好良さに感激する。そして下からレルヒが降りてこいと、手招きする。が、誰も恐くて滑ろうとしない。ようやくスキー歩行できるようになつた訓練生が、いきなり直滑降は無理な話。通訳兼現場リーダーの鶴見大尉がレルヒにもう一回手本を見せてくれるよう頼み、それに応じレルヒは二本目も見事に決め訓練生を見上げる。それでも誰も降りようとしない。業をにやした鶴見は、降りる順番を指名し命令をする。仕方なく決死の覚悟で先陣を切つた一番手は、滑るやいなや転倒し身体を深雪に没しもがいている。「一番手は、その様子を見て足が出ない。いつまでも動かない部下に「前のものを避けて行け！」と激が飛ぶ。ところが二番手もなぜか同じ場所で転倒。次々に同じ場所で転倒し、重なりあつた者同士が雪のなかで身を起こすことができず取っ組み合いになる始末。片や頭から雪に突っ込み、足だけが逆さまに出ていたり。なかには、転倒し、ようやくのことで起きあがつた人に肩車をするように乗り上がつた人が出たり、ユーモラスなシーンが続出。し

卷之二



インフォメーション

FISアルペンスキーー2016W杯湯沢苗場大会
湯沢町実行委員会

南魚沼郡湯沢町大字神立300
TEL 025-788-0040

上越市文化振興課

上越市本町3-3-2
TEL 025-526-6903

日本スキー発祥記念館

レルヒの会

上越市大貫2丁目18-37
TEL 025-523-3766

読者の声 ~前号を読んで~

ワイナリーは県民の誇り

先日、県外のワイナリーから「当社のワインを試飲してください」と一本送られましたが、ラベルをよく見ると〈原産国オーストリア〉。輸入ワインを瓶詰めただけのもので、味は可もなく不可もなく酸化防止剤たっぷりな感じ。商売の仕方はワイナリーによって、いろいろでしょう。でも品種と土地に誇りを持ってワイン造りをするワイナリーが新潟にあることは、新潟県に住む我々自身の誇りでもあると思います。

(新潟市・50代女性)



(現:城西中学校校舎脇)に建てました。日本スキー発祥記念館に飾つてあるレルヒさんの、実物大の人形も百年の記念として作りました。そしてレルヒさんが高田にいた一年間の日記がずっと記念館に保管されていたのですが、ようやく専門家に翻訳を依頼し発刊に漕ぎ着けました。これで当時のレルヒさんをより正確に知る手がかりができ、またレルヒさんが本国の任務を忠実に遂行していたことを裏づける資料になり、ほっとしました。

（現:城西中学校校舎脇）に建てました。日本スキー発祥記念館に飾つてあるレルヒさんの、実物大の人形も百年の記念として作りました。そしてレルヒさんが高田にいた一年間の日記がずっと記念館に保管されていたのですが、ようやく専門家に翻訳を依頼し発刊に漕ぎ着けました。これで当時のレルヒさんをより正確に知る手がかりができ、またレルヒさんが本国の任務を忠実に遂行していたことを裏づける資料になり、ほっとしました。

レルヒさんつて素敵！

レルヒが直滑降した金谷山に行つてみると、市を中心部から車で十分ほど近場に日本スキー発祥地を知らせる金谷山スキー場の看板があつた。いきなりカーブする上がり口から坂の途中まで、道の両側に幕末から明治、大正、昭和の日本の激動期を鮮明に伝える記念碑やお墓が続々上越の歴史の深みが重力を持つ

ています。でも正直なところ、やりたかったことの十分の一くらいしかできませんでした。まだまだレルヒさんの大きな足跡を、きちんと残しきれていません。いまの一番の願いは、一月十二日を「スキーの日」として国民的な記念日にすることです。

スキー人口が減ったとはい、スキーを知らない人はいませんね。これだけ日本人の暮らしに溶けこんでいるのですから、正確な記念日を認めてもらいたいです。そのためにさまざまな働きかけをしています」と熱い。

上越市は一九八一年（昭和五十六）、レルヒの師・ツダルスキーアルペニスキー術を完成させ、多くの人несキ術を教えたリリエンフェルト市と姉妹都市になった。その前からレルヒ

の会はリリエンフェルトの人と市民レベルの国際交流をしていて、それが縁で姉妹都市提携に至った。長野オリンピックでは、オーストリアの保存会の人たちと一緒に総勢三十人ほどで一本杖スキーのデモンストレーションを行い、海外の人から「まさにスキーは文化だ」と言われたと嬉しそう。ただ一本杖スキーを操る技術を再現するのは、写真や文献資料しかなく、かなり大変だったとも。

小堺さんにレルヒのいちばん惹かれるところは、と問うと即座に「三十年來の恋を実らせたこと」。「レルヒさんは結婚を考えた初恋の人がいました。女優さんのように美しい人です。でも、いろんな事情で結婚できず女性は別な人と結婚し、レルヒさんは軍務で各地を転々とします。ところが晩年を迎えると、その女性は離婚して二人の女

の子を連れてレルヒさんと結婚するんですね。レルヒさんが五十三歳の時です。律儀な人でひとつのことにものめりこむレルヒさんらしい逸話だと思います」。

レルヒが日本にアルペンスキーを伝えて百五年目の今冬、世界的な競技大会が湯沢の苗場スキー場で開かれようとしている。レルヒを魅了した越後の山々と雪国の温かさが、また多くの人びとを迎える。

という返事。その困窮ぶりを知り心を傷めた高田スキー団はさっそく見舞金を集めレルヒに送ったところ、高田の人々の厚意に感激したレルヒがお礼に何かを贈りたいと言つてきました。それならばとレルヒ直筆の水彩画を希望したところ十数点の作品が送られてきた。ここで終わらないのが雪国の深情け。その後、それらの作品の頒布会が開かれ、高値をつけられて販売されるが、またたく間に売り切れ、その売上金がふたたびレルヒに送金された。レルヒは「高田は第二の故郷」と人々の変わらぬ温情に感激したという。その時の手紙が大切に保存されている。

日本スキー発祥記念館には、レルヒ愛用の机や身の回りの品が展示されていた。そして驚くことにレルヒ自筆の絵画も飾られていた。にわかに信じ難かつたが、その絵筆を上越市文化振興課に伺う。それはレルヒが高田を離れてから十八年後の一九三〇年（昭和五）、記念碑『大日本スキー発祥之地』除幕式の翌日、高田スキー団の昼食会で「いまの日本スキーの盛況ぶりをレルヒに見に来てもらおう」ということになり、当時の鶴見副團長がレルヒを招待した。しかし、レルヒから「戦傷で入院中、恩給も敗戦でもらえず医療費も払えない状態で行きたいけど行けない」

時空をつなぐ『レルヒの会』

上越市では、レルヒとの思い出が日のことのように語られ、色褪せることがあります。日本のスキー界に記したレルヒの功績と、一本杖スキーの技術の伝承をしている『レルヒの会』は、結成から半世紀を経ても、いまなお活発な活動を続けている。五代目会長の小堺昭さんは日本スキー発祥百年記念事業をふりかえり「まずメテレスキー」の石碑を元の雨覆練兵場の日」から上越市で開催される。



赴任地や旅先で撮影した写真のアルバム。

「アルプスの春景」



【以上、日本スキー発祥記念館所蔵】



好天に恵まれ大勢のスキー客で賑わう苗場スキー場。(湯沢町)

レルヒ少佐絵画展

【期間】2016年1月12日(火)～2月7日(日)午前9時～午後10時

【会場】ミュゼ雪小町 上越市本町5丁目4番5号 あすとびあ高田5F 【問い合わせ】TEL025-521-4025

上越市が所蔵するレルヒの絵画のほか、レルヒが生前に愛用していた身の回り品など約60点が「スキーの日」から公開されます。県内では上越市の日本スキー発祥記念館にその一部が展示されているだけです。この機会にレルヒの素顔に触れてみてください。